

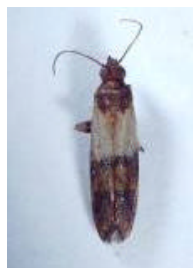


## 1匹のムシから・・・

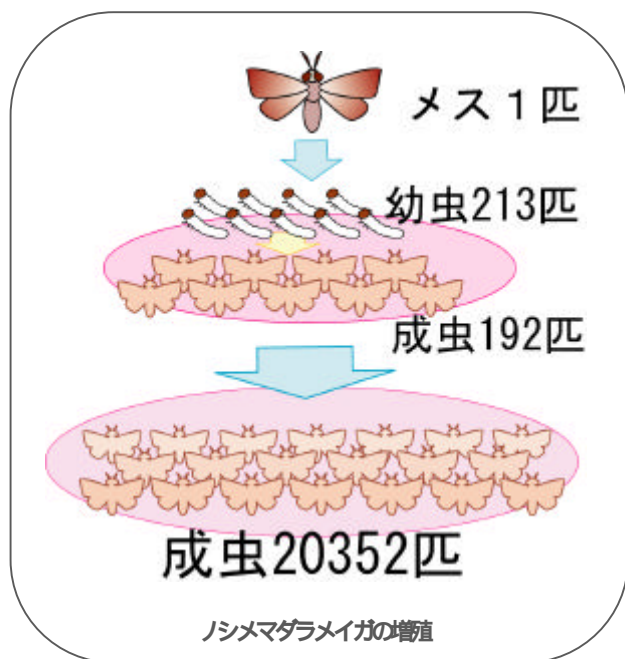
いよいよ夏本番です。虫たちの活動も活発になります。身近なところで蚊に刺される回数や街灯や部屋の明かりに群がる虫の多さから、虫たちの活動の活発さが伺えます。また、中には、ゴキブリのように光を嫌って活動する虫もいますので、人にはあまり気づかれないものの活発に活動している虫もいます。

虫たちの活動が活発になると、人の生活圏に侵入したり、生活圏で生息・繁殖して被害を及ぼす機会が増えます。しかし、人が直接被害を受けたり、目撃するのは、人の生活圏に実際に侵入・生息している虫のほんの一部なのです。

よく、屋内で1匹のゴキブリを見かけると100匹は生息していると言われることがあります。実際には、生息のために環境の影響（餌、生息場所、気温など）も受けまますし、はじめの1匹かもしれないので、必ずしも100匹いるとは言えないでしょう。しかし、卵を抱えたメスが1匹でも侵入し、屋内が生息できる環境が整えば、どんどん増殖していく可能性があります。チャバネゴキブリでは条件がそろえば、1ペアから1年で1万匹以上に増加すると言われています。これは、ゴキブリだけでなく、屋内で生息可能な昆虫類でも同様なリスクがあると言えます。



ノシメダラメイガ (左)成虫、(右)幼虫



屋内で生息し、一般家庭だけでなく貯穀物を扱う食品工場や流通等で広く問題となるノシメダラメイガでは、宮ノ下・今村（2009）の報告で、1匹の雌成虫からどれくらい次世代が生まれたか、さらにその次の世代が推計されています。この報告によると、一般家庭から採集された1匹のメスから213匹の幼虫が育ち、約1カ月後には成虫が羽化し、雌106匹、雄86匹、合計192匹の成虫ができました。この雌がさらに2世代目を増殖すると、成虫は20,352匹になると算出しています。

屋内で温度条件や餌が不足しない環境であれば、3世代目、4世代目とどんどん増殖は続き、目もくらむ数の個体が生まれ育つことになります。実際には温度条件や餌となる食品の種類や量、物の移動などの影響で増殖は制限されるので、ここまで増えないとしても、1匹の虫

の繁殖がもたらす次世代以降の虫、それらの虫がもたらす被害のリスクは大きなものになります。人の病気と同じように、防虫対策でも早期発見早期対応が重要です。そのためにも、日常のトラップによるモニタリングが欠かせません。ノシメダラメイガではより効率よく誘引捕獲できる専用のフェロモントラップがあります。被害が拡大する前に、虫の調査・駆除・モニタリングについて、弊社に是非ご相談下さい！